

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	PARCふくしま			
○保護者評価実施期間	2025年9月29日			2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	2025年12月1日			2025年12月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンでの個別療育・保護者支援・保育所等訪問支援で包括的な支援が期待できる	療育に入ったスタッフが保護者様に対してFBも行えるため、成長やお子さまの強みを共有できる。また希望者には保育所等訪問支援も行っており、療育と併用利用ができるため、個別・家庭・集団とそれぞれの場所でのお子さまの様子を共有できる。	より支援の形や方向性が明確化するように、スタッフ間はもちろん、保護者様とも連携を取っていく。訪問支援をご利用の際は、訪問先の園の先生方とも今のお子さまに必要な支援を共有し、具体的にアクションを起こしていく。
2	保育士・幼稚園教諭・OT・STと多職種が所属しているため、多角的な視点での支援が期待できる	保護者の悩みや、本児の様子に関して多職種での視点を伝えることができ、またアプローチの仕方も多職種のため多岐にわたっている。	訪問看護とも連携を行い、定期的なケースカンファレンスなど取り入れることで、より多職種での意見を参考にして、支援のアプローチを拡げたり、多角的な視点から連携を行っていく。
3	毎月季節に合わせたイベントを行っている	集団療育は不定期で行っているものの、在籍児童の人数が多いため、全ての利用児が集団療育に参加することは難しい。よって多くの利用児に楽しんでもらえるよう、また療育のバリエーションを拡げられるように毎月制作や運動のイベントを実施している。	都心部という立地を生かした集団療育など、従来の形にとらわれない集団療育の形を検討していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主体性を持った療育と自由遊びの違いが伝わりづらい	スタッフはみな意図を持ったアプローチを行っており、それぞれの利用児に対しての現状や課題も把握しているが、一見すると自由遊びをしているように見えるため、保護者への説明や理解が必要になってくる。	支援の意図や目的を保護者様へ丁寧に説明するとともに、保護者様の想いにも寄り添えるようにアセスメントした内容を取り入れた療育を引き続きしていく。また新規利用の方に対してはより丁寧に説明し、幼児期に主体的に自己選択していくことの大切さ、遊びの中で達成感や成功体験を作ることの重要性を実感してもらえる療育を行っていく。
2	保護者様に向けての研修や交流会の頻度が少ない	共働き世帯が多く、平日の保護者会開催は人数が集まらないことが予想されたり、土曜日が開所日であることからスケジュール調整が難しい。	オンラインの利用やアーカイブを見て頂けるように配信するなど、オンラインを活用しながら研修会等の機会を設けていく。保護者交流会に関しては、前年度は多数の保護者様に参加いただいたので、今年度も継続して行っていきたい。
3	地域での横の繋がりが少ない	都心部ということもあり、新しい事業所が続々増えているものの、中心となる事業所が少なく、情報共有の頻度が少ない。	通期特性として共働き家庭が多く、併用利用している児童が多いため、今後横の繋がりを作れるような連携の在り方を考えていきたい。特定の事業所とは事業所間連携も行っているため、引き続きお子様に対しての支援の方向性を統一できるような仕組みや在り方を検討していきたい。